

傾聴ボランティアさくら “だより”

2018 年 4 月 28 日
傾聴ボランティアさくら
発行
第 7 号

2017 年度（平成 29 年度）のたくさんの活動

傾聴ボランティアさくらの会員の皆様 春爛漫、自然界は生まれ変わったように生き生きしています。お元気にご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成 29 年度はたくさんの活動の要請がありました。4 月に総会が終わってから「傾聴ボランティアさくら」の皆様は大活躍でした。その概要をご報告いたします。

「傾聴ボランティアさくら」の事業内容

1. 「傾聴ボランティア養成講座」

全 5 回(4/15、5/20、6/3、7/29、8/26)各土曜日に

「傾聴ボランティアさくら」は第④講を担当しました。

- ① 傾聴ボランティアの意義(4/15)：岡安詔子氏
- ② 寄添う事の重要性(5/20)：香山雪彦氏
- ③ 感情コントロール・対人関係構築のコツ(6/3：岡田友子氏、
- ④ 傾聴ボランティアの実践から学んだこと(7/29)：傾聴さくら会員の担当
- ⑤ 共感の重要性(8/26)：岡安詔子氏

受講の基準を満たした受講生の皆さんには認定証を発行し、本会「さくら」入会の案内を実施したところ、認定者数が 56 名、その内 28 名が本会に入会した。その結果、本会の活動が広がるとともに本会の運営において安定化が図れました。

「傾聴ボランティアさくら」が担当させていただいたのは④は、前半が「認知症を知る」で、

「グループホームもとうち」の管理者・藤枝朋子先生がパワーポイントで分かりやすく説明してくださいました。後半は、傾聴ボランティアの活動を行っている「傾聴ボランティアさくら」会員からの体験の分かち合いとなりました。

左の写真は傾聴養成講座やアフターケア講座でご指導いただきました左から佐藤延子先生、岡安詔子先生、一人とんで、シスター古賀綾子先生です。



養成講座ロールプレートの様子

2. 「傾聴ボランティアアフターケア講座」

全 3 回(7/8、9/16、9/30)各土曜日に、本会会員のスキルアップのための講座を開催した。7/8 は「怒りに悩んでいるあなたに」～アンガーマネジメント～講師 寺崎美穂先生、9/16と9/30の 2 回 は、「自己を知る」～エニヤグラムをとおして～講師 シスター柴田香代子先生、

会員の活動中に遭遇するいろいろな問題、さらに会員同士の交流によりお互いの経験で得た不安に対応できるスキルを身に付けることができました。情報交換の共有により、会員間のコミュニケーションの深化を図ることができました。

シスター柴田の講義の様子



3. 「傾聴ボランティア ワークショップ」

11/18日(土)に、「傾聴ボランティアさくら」の会員と一般公募者を対象に開催しました。テーマは「傾聴がもたらすもの」で基調講演「寄添う事の重要性」三瓶千香子先生の講話を基に、ワールドカフェ方式によるワークショップを行いました。基調講演で述べられた「受け入れないで、受け取ってパスする、繰り返す、ちょっと待つ」を、アドバイザーの岡安詔子先生の助言を受け各自の考えを分かち合うことで深い話し合いがなされた。会員及び一般参加者は日常の傾聴活動において、寄り添う事への意識を高めることができました。終了後、希望者が講師の先生を囲んで「ふりかえり」の分かち合いを行います。



三瓶千香子先生の基調講演



テーマ

ワークショップの議論テーマ

ネガティブな話を聞いたとき、聴き手は、ネガティブな思考や想いを「受け入れない」で「受け取って、相手にパスする・繰り返す・ちょっと待つ」というのがコツだと言われます。

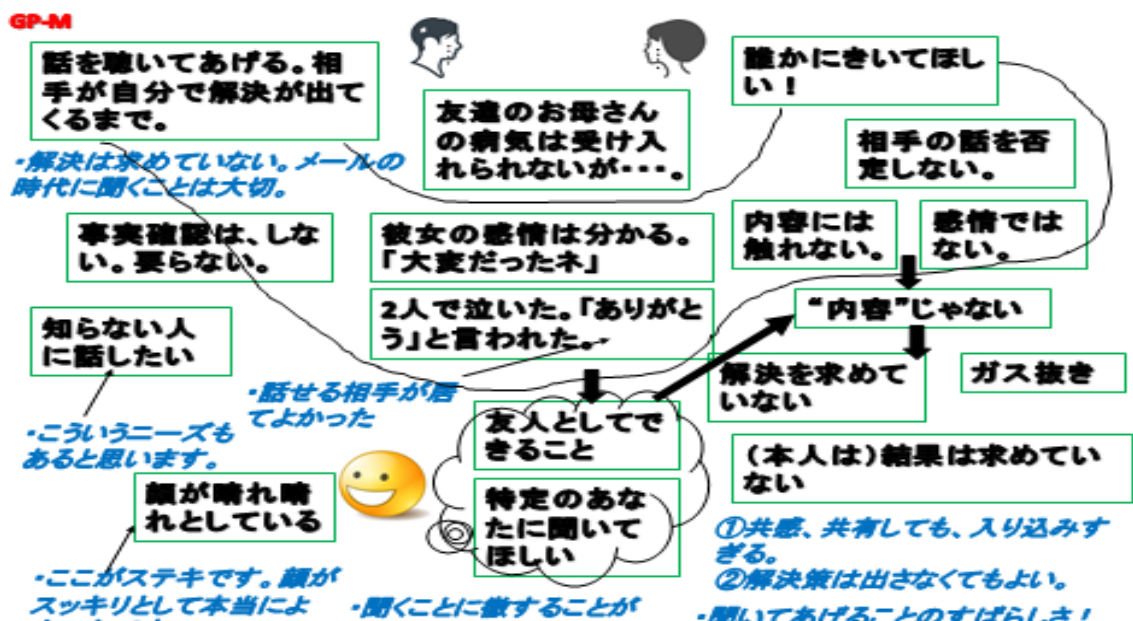
「受け入れない」で「受け取ってパスする」とは、どういうことだと思いますか？



ワークショップの様子

ワークショップのテーマ

例 ある班のワークショップの成果 (青文字は他の班からのコメント)



4. 「傾聴ボランティアさくら」の傾聴活動

傾聴ボランティアさくらの

集い

① 会員たちの活動

訪問施設数： 13 施設

訪問回数： 582 回 傾聴ボランティア参加延べ人数は
4,492 人でした。

主な訪問先として、

- ・ 社会福祉法人「なごみ」、
- ・ 医療法人「生愛会」、
- ・ 株式会社「ツクイ福島・笹谷」
- ・ グループホーム「もとうち」、
- ・ 浪江町・コスモス会、
- ・ 社会福祉法人「多宝会」特老ホーム「まちなか宝生園」、
- ・ シニアライフハウス「湯の里大生苑」、
- ・ 社会福祉法人あいあい福祉会グループホーム「だんらん笹谷」、
- ・ 医療法人「後藤整形外科パワーリハビリセンター桜」、
- ・ 社会福祉法人「コクーン」、
- ・ 地域包括支援センターからのご依頼で四件の「在宅傾聴訪問」をさせていただきました
- ・ 「傾聴さくら手芸部」は桜の聖母短期大学の「あかしや祭」に手芸品のバザーの部と傾聴コーナーで参加し、ご好評をいただきました。会員の皆様のご協力に感謝いたします。



生愛会での傾聴の様々



飯坂「大生苑」の傾聴を終わって！



グループホーム「もとうち」

リハビリ桜の傾聴の後



② 広島市で開催された「あんしん社会づくりのための危機対応『傾聴ボランティア』の養成セミナー」(5/20、6/10、7/22)へ三瓶千香子桜の聖母生涯学習センター長、桜の聖母生涯学習センター講師の岡安詔子氏、傾聴さくらの会員1名が講師として招聘されました。

傾聴さくらの会員は「福島の地で人に寄り添って」のテーマで、傾聴との出会いを少し組み入れ、現状と実践、問題提起、ロールプレーそして未来への希望とすすめていきました。

「福島と広島の連携講座レポート」を三瓶千香子先生（桜の聖母短期大学准教授・生涯学習センター長兼地域連携センター長）がまとめられました。第1講は、「不安を分かち合える社会づくりの必要性」、第2講は、「相手の心に寄り添う ころの通う聴き方」、第5講は、「福島の地で人に寄り添って」、三瓶先生は最後に「多世代に対応できる傾聴ボランティアの育成を」でレポートを結んでくださいました。（お読みになりたい方はお申し出ください。）

③ 飯野学習センター(6/17)から、本会会員3名への派遣依頼があり派遣しました。

④ 昨年に引き続き、会津若松市社会福祉協議会から、「会津ゼミナール(7/23)」と「アフターケ

- ア講座(会津)」への講師として、2回に分けて本会会員4名の派遣依頼がありました。
- ⑥ 天栄村学習センターからの要請で本会員3名が講師として派遣(1/22)にされました。

3

- ⑦ 桜の聖母生涯学習センター「傾聴ボランティア養成講座」(7/29) 講師として依頼されました
- ⑧ 福島県社会福祉協議会ボランティア フェスティバルにワールドカフェのアシスタントをつとめました。

2018年度(平成30年度)の主な活動計画

1. スーパーバイザー養成のスタート

- ・主催 : 傾聴ボランティアさくら
 - ・日時 : 6/16. 7/7 9/1 9/15 各 13:00~16:10
 - ・場所 : 桜の聖母短期大学 Rm308
 - ・講師 : 第1~2講...岡安詔子先生、
: 第3~8講...三瓶千香子先生、
 - ・対象 : 「傾聴ボランティア養成講座」(桜の聖母生涯学習センター主催)を受講し、
認定証を受けた「傾聴ボランティアさくら」の会員
- ※ 同封の申込みはがきにご記入の上5月14日までにご投函ください。



傾聴ボランティア運営委員会

6月16日 講師: 岡安詔子先生
第1~2講 「傾聴ボランティア養成におけるスーパーバイザーの必要性と本講座の趣旨」

7月7日 講師: 三瓶千香子先生
第3講 「ワークショップ体験とフィードバック①
— アイスブレイクとコンセンサスゲーム —
第4講 「ワークショップ体験とフィードバック②
— KJ法 —

9月1日 講師: 三瓶千香子先生
第5~6講 「ワークショップ体験とフィードバック③
— ワールドカフェ —

9月15日 講師: 三瓶千香子先生
第7講 「ワークショップ運営起案」
第8講 「ワークショップ模範運営フィードバック」
— 11月の傾聴ボランティアシンポジウムに向けて—

2. 傾聴ボランティア ワークショップ

- ・傾聴ボランティアさくら主催
- ・企画・運営: 傾聴ボランティアさくら
- ・基調講演とグループワーク
- ・日時: 11月の予定

3. 講師派遣の対応

- ・傾聴ボランティア養成講座の講師 (桜の聖母生涯学習センター)
- ・傾聴ボランティアゼミナーの (会津若松市社会福祉協議会主催)
- ・「傾聴ボランティア ワークショップ」(仮名)の企画運営

・その他

4. 社会福祉協議会に参加(福島県・福島市)
ボランティア連絡協議会に参加(福島市)

傾聴ボランティアさくら(福島)
住 所：〒960-8585 福島市花園町3番6号
桜の聖母生涯学習センター内
連絡先：携帯080-8211-6811

4

(傾聴ボランティアさくらの会員の講話の抜粋)

—傾聴ボランティア養成講座の受講のきっかけ—

2011年3月11日のあの東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故とそれ以後の福島での体験から始めます。原発から60kmも離れた福島にながらも体験した喪失感、自然の力を目の当たりにして、手も足も出ない人間の無力さを感じたこと。日々の生活が当たり前と思っていた自分の傲慢さに気づいたこと、水を分け合い支えあったこと、地域のつながりの力強さを感じ、人間が限りなく愛おしくなったときに、自分の守りだけに埋没していることに気づきました。福島が立ち上がるために何かをしたいと思ったとき「これだと直感的に傾聴ボランティアに飛び込んだのです。

5